



目黒区立第十一中学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成25年7月4日（木） 午前9時30分～午後4時00分
  - ・校長、教務主任、養護教諭を対象としたヒアリング
  - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成25年9月2日（月） 午前9時30分～午後4時00分
  - ・副校長、学校評議員、PTA役員を対象としたヒアリング
  - ・教育活動の参観
  - ・評価者から学校への助言

2 評価者

筑波大学人間系教育学域教授 藤井 穂高  
元世田谷区立弦巻中学校長 橋本 由愛子

3 評価結果

評価項目		評価
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	四者による評価結果はおおむね良好であり、学校教育への充実度・満足度とも評価が高い。特に生徒からの評価の高さは本校の教育の成果を表している。 「学校評価のまとめ」の自己評価、改善点の記述も妥当なものである。
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	学校評価委員による意見もおおむね肯定的なものである。学校関係者評価に基づき、次年度の学校経営に反映する内容も、学習、道徳、教育相談等の7項目により適切に押さえられており、実態に即した教育課程の編成を行っている。
(2) 学校評価結果を踏まえた学校運営の改善について	ア 教育課程の実施状況	率先垂範する校長の姿が、教職員全体の意識の高揚に結び付き、教職員と生徒の関係も良好である。特に、指導方法工夫改善授業の実施では、個々の生徒の実態に応じたきめ細かい指導を実施することに重点を置き、成果をあげている。 授業参観の限りでは、各学級において比較的落ち着いた授業がなされていたが、生徒の意欲を高めるために授業の進め方等を工夫する余地がある。また、一部の授業では生徒の学習規律あるいは教員の授業態度で気になる点も見られた。 小規模校ではあるが、部活に積極的に取り組んでおり、その成果も顕著である。

	イ 運営組織の状況	週に一度の主幹会議の開催や、できるだけ小さい単位で会議を開く等、教職員の発言を引き出す工夫がなされ、教職員間の情報交換がよく行われている。 小規模校であるが、全教員が全生徒に関わることができるなど、小規模校のよさが生かされている。
	ウ 家庭や地域との連携状況	地域行事が多いが、学校の教職員が積極的に関わっており、地域からの評価も高いので、現状を地域へ周知するとよい。 学校評価アンケートやヒアリングの結果によると、保護者による肯定的な回答が多く、保護者の学校に対する評価が高いことが分かる。 体験学習や社会的・職業的自立に向けた教育、進路指導などでの地域人材の活用も活発である。
(3) その他	・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた取組	社会的・職業的自立に向けた教育の一環としてのサマースクールの実施、冬季のスキー教室など、体験学習を重視しており、学校独自の取組が多い。 地域とともに子どもを育てる教育やボランティア活動を推進し、定着するとともに成果が見られる。 年4回の個人面談や年3回の保護者会など、教育相談の充実は評価できる。
	・学校間連携の状況	年3回の合同研修会のほかに、「子どもの健全育成を考える会」の実施により、地域ぐるみの取組も行われている。 中学校1校と小学校2校という連携を進める上では恵まれた条件にあることから、今後は、カリキュラムの検討も含めて、その発展に期待したい。 中学校の校長がリーダーシップを取りながら、意図的・計画的に連携を進め、その成果が表れている。

#### 4 総合評価

中学校としては小規模校ではあるが、全教職員が全生徒を見守り、小規模校のよさが生かされ活発な部活動が行われている。

教職員の積極的な関わりにより、保護者・地域との関係も良好であり、保護者・地域からの学校に対する信頼も厚い。

落ち着いた雰囲気を保っている学校であるので、質の高い授業に向けて、教員一人一人の一層の授業力の向上に期待したい。

校長のリーダーシップの下、良好な学校運営が行われているので、これを継続するために今後の人事計画も含めて、本校のよさを生かすことができる人材育成を検討しておく必要がある。